



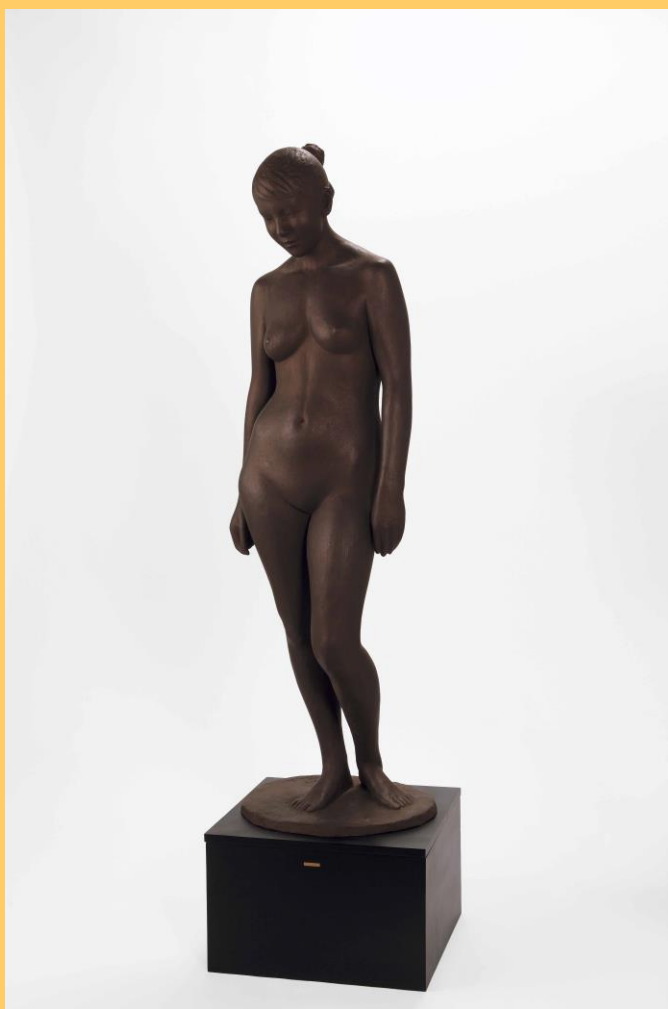
いづみ

No.49

街なかの美を守ろう

(題字 國松 明日香)

自作自選 19



《女・立》

田中 隆行

(2 ページに「作者の言葉」)

自作自選 19 作者の言葉

わたしの彫刻は人物を表現する具象彫刻を意識して制作しています。粘土を付けたり削ったりしながら、フォルムやムーブマン、そして、空間との対比など彫刻の美しさを見つけだしながらの制作です。「具象彫刻はおしゃべりしてはいけない」という故佐藤忠良氏の言葉を一つの指針として制作しています。(田中隆行)

タイトル:「女 立」

制作年: 2014 年

全道展出品作

素 材: ブロンズ

サイズ: W170×D40×H40 cm

連載 宮の森の四季 19

本郷新記念札幌彫刻美術館

《園 EN》

館長 池田 悦子

開催中の New Eyes2014「Our Place」の展示の中で、日々成長する作品として注目しているのが、造園家小助川裕康氏による《園 EN》だ。札幌市内から集めた建設残土から成るピラミッド型の立体に数種類の草花の種を植え付けてある。タイトルは《園 EN》だが、小助川氏によると園・円・縁・ONE ひとつに、などの意味があるという。土の積み上げから種まきまで、地域の小学生をはじめとした市民参加型の作品である。

6月中旬に種まきをして1週間が過ぎたころ、最初の芽が顔を出した。職員間で嬉しいニュースとなった。同時に、道端でよく目にする雑草も元気よく育っている。植物にはそれぞれ固有の名称がある。しかし今更ではあるが「雑草」とは？と思い、インターネットで検索してみた。「人間生活に役立たない雑多な植物。人間の生活範囲に人間の意図にかかわらず自然に繁殖する植物。人間によって改良された場所や人為的に攪乱された場所（日照・水分・乏しい土壌・埃・踏み付け…）に繁殖。」そうか、このピラミッドは残土から成っている。雑草たちの得意エリアだ。まるで「ここは俺様の土地さ！」と言わんばかりの成長ぶりである。その間を縫うようにしてかすみ草やコスモスが一生懸命背を伸ばしているのがいじらしい。

太陽の光をいっぱいに浴びた8月。かすみ草の白い花がピラミッド一面を覆った時、雑草たちは少し遠慮がちになったように見えた。「これも何かの縁だからさ。」「ピラミッドでひとつになろうよ。」と、粹なことを言っている雑草たちの声が聞こえたような気がした。雑草取りはしていない



文化が経済をけん引する、暮らしたくなる都市さっぽろへ

米澤 修吾（会員）

ウェルカム北海道株式会社代表取締役

7月19日から9月28日までの72日間、札幌国際芸術祭2014が開催されました。

札幌市は2013年11月、世界41都市が加盟するユネスコ創造都市ネットワークに、メディアアーツ都市として登録されその一員となりましたが、今回の芸術祭は、そのお披露目のお祭りとして、モエレ沼公園のフォレスト・シンフォニーや札幌駅前通地下歩行空間（チ・カ・ホ）のセンシング・ストリームズなど市内のさまざまな場所で、人間と自然が共生する、新しい都市のかたちをメディアアーツとして表現する試みがなされています。

ユネスコは、メディアアーツ都市を次のように規定しています。

すなわちデジタル技術などを用いた新しい文化的、クリエイティブ産業の発展をめざす都市。さらに、都市生活の改善に結びつくメディア芸術の振興、そして文化多様性の理解や市民参加を促す電子芸術の成長をけん引する都市。

メディアアーツ都市さっぽろは、どういう新しい都市のかたちをめざしているのでしょうか。メディアは媒体、アートは対話を生み出す媒体というように捉えると、「メディアアーツ都市さっぽろ」の視界は多少開けてくるのではないのでしょうか。

札幌国際芸術祭 2014 のテーマ「都市と自然」

と「旅」を掛け合わせた市民主体のSIAF旅プロジェクトに私自身もボランティア参加し、芸術祭開催期間中に「札幌の縄文人はどこからきたの？そしてどこへいったの？」に始まる4回にわたる講座と旅で、参加者それぞれに新たな対話が生まれ、自らが自発的にメディア媒体として発信する、いわばメディアアートとしての「旅」の試みにチャレンジしました。

18世紀イギリスから始まった産業革命をしのぐ産業の革命が進行中の現在、グローバルな資本主義経済は、それぞれの国の状況や地域事情に応じて、産業資本から金融資本へ、そして創造資本へと新たな段階へと歩みを進めています。

2014年第1回札幌国際芸術祭開催を契機に、私たちに内在するさまざまな感性、ソフトパワー、生きる力を日常の暮らしの中で、文化・芸術との主体的な係わりを通して自身の内側から耕し、日々複雑多様に変化する現実の中で、あらゆる価値観や生き方をお互いに尊重し、しのぎを削りながらも、多様な得意や能力を分かち合おうとする人や企業が増えていくことにより都市に暮らすミリオクをそして都市経営力を高めたいと思います。市民や企業がメディアとなって彫刻していく都市、市民も企業も共に脱皮成長できる都市、暮らしたくなる「メディアアーツ都市さっぽろ」を創りあげたいと考えます。

“美術セミナー”で芸術作品鑑賞の橋渡し

居酒屋の美術サロンから日生セミナーまで

アートナビゲーター・高橋淑子(会員)

美術に対する造詣を深め、その知識を生かして美術の世界を多くの人に伝えるアートナビゲーターとしての美術検定1級に合格したのは2005年のことでした。活動は9年目を迎えています。第1回目の合格者がわずか11人だったため、重宝され、東京ではプラド美術館展、ヴィーナス展、コロー展、日本の美術館名品展で作品解説をさせていただきました。準備のため、事前に誰もいない展覧会を観覧できる特典が魅力的でした。

その経験を生かし、知人の紹介もあって札幌市内の居酒屋で「淑子さんの美術サロン」を2003年1月から始めました。芸術作品は実物を感じるままに見てもらうのが一番。パワーポイントの映像で作品の魅力を伝え、「明日にでも実物がみたい」と思ってもらえるようにするのがアートナビゲーターの使命とばかり、食事代がかかるのに通って下さったお客様に感謝しつつ、月1回のサロンは翌年春まで1年余り続けました。

酒場の片隅で丸テーブルを囲み、30分ほどの講義は美術を専攻したわけでもなく、専門分野ありませんので、エジプト文明から浮世絵まで、気の向くままのおしゃべり。常連さんの中には私以上に詳しい人や世界中を旅して

いる人もいて、楽しくもまた勉強になりました。

その後、少し形を

変えて2011年4月からスタートしたのが、現在も続いている「日生セミナー」です。日本生命の顧客サービスの一環として3カ月に1回、14回までたどり着きました。14回すべて参加して下さっている熱心な方には頭が下がります。

美術館の高い敷居を下げることとボランティアの資質を上げること、美術と社会をつなぐパイオニアが美術検定の目的です。私自身、アートナビゲーターとなる前から道立近代美術館や札幌彫刻美術館友の会のボランティアを始めていましたので、資格は個人での活動に生かしています。

9月2日は久々に東京でオルセー美術館の学生向けガイドを担当し、アートナビゲーター仲間との情報交換が新たな刺激となって帰りました。今後も友会活動に様々な体験を生かして行きたいと思っています。



「日生セミナー」の高橋淑子さん

リポート

友の会恒例

美唄・旭川バスの旅―北の芸術を心行くまで鑑賞

アルテピアッツァ美唄・三浦綾子記念文学館・買物公園などめぐる

2014年の友の会恒例のバスの旅は6月18日、総勢50人が参加、日帰りで行われた。天候にも恵まれ、アルテピアッツァ美唄で安田侃の彫刻を鑑賞したのをはじめ、旭川では原生林が息づく「北邦野草園」、陶芸家らが集う「北の嵐山」ほか、「三浦綾子記念文学館」、街角に彫刻が点在する「買物公園」などを回り、“芸術の一日、を楽しんだ。参加者の桑原昭子さん、久保田彩荷さんにコメント寄せてもらった。

三浦綾子取材ノートに感銘

桑原 昭子さん(会員)

安田侃先生のアート溢れる「アルテピアッツァ美唄」では自然と深く調和した野外彫刻の空間に魅せられ、旭川の外国樹種見本林の中に立つ「三浦綾子記念文学館」ではちょうど代表作「氷点」50年特別展が開催中で生原稿、取材ノートなどの展示に、病と闘いながらの作家活動の軌跡に感銘を受けました。



原始林の中の北方系植物の宝庫、「北邦野草園」で草花を楽しみ、さらに、焼き物の窯、陶芸家のアトリエを見学

することができ、有意義なひと時でした。

「買物公園」に設置された旭川ゆかりの作家の彫刻は素材もブロンズ、鉄、石など様々で、木漏れ日の中でやさしく触れながらの鑑賞になりました。また、本郷新の「風雪の群像」、山内壮夫の「隼の碑」などとの出会いも喜びでした。旭川駅のステーションギャラリーは市民の声が反映され、地域づくりの成果が見えるようでした。

＜サキソフォンと猫＞に感慨

久保田彩荷さん(会員)

新緑の日帰りバスツアーで訪れた美唄ではコーヒーズブレイクを取れる設備が増え、施設の充実を感じました。バスの中で知り合った方に買物公園では黒川晃彦作「サキソフォンと猫」の像で友人とツーショットを撮っていただきました。

ひと月ほど前、ベルギーに旅行をした折、首都ブリュッセル近くのディナンでサキソフォンの

語源ともなったアドルフ＝サクスの生家へ行きました。ムール河にかかる橋の欄干には色とりどりの



サキソフォンが並び、通りにはサクスのアーチがずっと続いています。

旭川の買物公園 3条通りの「サキソフォンと猫」を見て、思い出しました。ベンチに腰を掛けたらチヂレ髪の奏者でした。

「北の嵐山」では陶芸だけでなく、欲張って「北邦野草園」の入り口も体験しました。

友の会の会員になって日も浅い私ですが、バスの中での皆さんとの出会いが楽しく、感謝しています。

友の会ニュース

彫刻学習会

“高橋大作講座、絶好調 セメントの基礎から学ぶ

今年度の友の会活動の重点項目である劣化コンクリート彫刻実態調査に欠かせない、コンクリートに関する基礎知識を学ぶ彫刻学習会が始まった。

会員の高橋大作さんを講師に6



月5日の初回講座では「コンクリートとは？」の初歩的な疑問からスタート。コンクリートの歴史、セメントの成分、コンクリートとモルタルの違い、さらに、コンクリートはなぜ固まるのか、コンクリートの劣化の種類と原因、補修方法など幅広いテーマを取り上げた。専門的な用語を素人にも分かりやすくかみくだいての説明に受講生も納得。

さらに2回目の講座は7月4日、中島公園へ出かけての野外実地学習。公園内の山内壮夫のコンクリート作品を実際に見て回り、破損状態から「ヘアークラック」「ポップアウト」「爆裂」などの専門用語を学び、さらに、彫刻作品の実測方法、調査票への記入要領なども勉強した。



今後、札幌市内にある劣化コンクリートの実態調査に乗り出すための具体的な計画を作り、年内に実態把握にこぎつける予定。調査対象予定の彫刻は市民ホール前<希望>、動物園前<よいこ つよいこ>など23点。

友の会制作の解説板を設置

大通公園の彫刻にお目見え

友の会が札幌市の公園管理事務所から制作を委託されて作った大通公園の彫刻解説板がこの夏から順次設置されている。

解説板はそれぞれの彫刻の脇に置かれ、作品の由来、設置理由など、友の会が知恵を集めて文案を練った苦心の作。見やすく、作品鑑賞の邪魔にならないように配置場所、解説板の文字の配色にもこだわり、片隅に友の会の名



とQRコードがはめ込まれ、スマートフォンなどから友の会のホームページにある「街中の美術館」に接続して詳細なデータを知ることができる仕組み。現在は大通西3,4丁目区画の彫刻に設置されているが、順次、増設する。

橋本会長学会での発表相次ぐ

屋外彫刻保存研究会総会などで

橋本信夫会長は7月27日、東京・武蔵野美大で開かれた全国屋外彫刻保存研究会



の総会に出席、「北海道の野外彫刻の概況とクラウドコンピューティングによる野外彫刻の活用」と題した講演を行い＝写真＝、北海道での野外彫刻の現状を発表、友の会の取り組みを紹介した。

また、先立つ7月25日には北海道地域ネットワーク協議会(North)総会に、翌26日、北海道地域観光学会全国大会でも野外彫刻の観光資源化について講演、全国各地の研究者との連携を深めた。

彫刻清掃活動真っ盛り

高圧洗浄機大活躍

友の会の野外彫刻清掃活動が夏場にかけて最盛期を迎え、今年のスケジュールを順調にこなしている。

今年度は5月から9月までのシーズンに17回の清掃活動の予定だが、8月末までに13回の清掃を終えた。

中でも北海道美術館協力会と行った近代美術館の清掃(5月30日)では初めて高圧洗浄機の使用が許可され、威力を発揮した。例年、台座と彫刻下部だけの清



掃だった<嵐の中の母子像>では脚立を使って像の全身はじめ細部まで高圧の水で汚れを吹き飛ばすことができたほか、<雲の砦>(流政之)「北海道近代美術館の碑」では彫刻と台座の隙間の汚れを洗い流し、真っ黒だった台座の花崗岩が本来の色合いを取り戻すなど、効果絶大だった。

また、6月1日に行われた中島公園の鴨々川清掃では札幌南高

の生徒たちと共に<木下成太郎像>を手洗いし、高さのある<森の歌>(山内壮夫)は札幌シニアネット会員が高圧洗浄機でさっぱりさせた。

端聰・芸術祭地域ディレクターらの解説で

国際芸術祭を鑑賞

500Mギャラリー、チカホほか

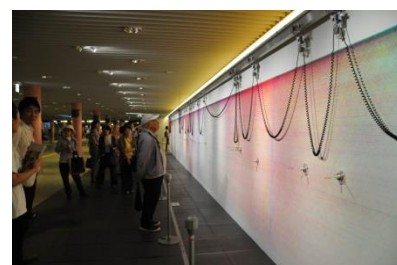
会員有志による2014国際芸術祭鑑賞ツアーが8月29日に行われ、端聰国際芸術祭地域ディレクターらスタッフの解説を聞きながら現代アートの神髄に迫った。

参加したのは橋本会長ほか16人。まず、端ディレクターの案内で大通地下街から地下鉄バスセンター駅前まで延びる「大通地下ギャラリー500m美術館」で展示中の「北海道のアーティストが表現する『都市と自然』—『時の座標軸』」を鑑賞。懇切で丁寧な作品解説に耳を傾けた。

参加した人たちは作者の制作の意図、狙い、作品のエピソード



などを交えながらの説明を熱心に聞きながら、作品をカメラに収めるなど現代アートの奥深さを味わった。



さらに、札幌駅通前地下歩行空間(チ・カ・ホ)では地下道を歩く人の数、温度変化などを感知した3色のボールペンが壁面に筆跡を描く特別展示「センシング・ストリーズム」に目を奪われていた。

このほか札幌市資料館会場も訪れ、子供を対象にした「コロガル公園 in ネイチャー」なども見学した。

会員で元札幌事務局長

竹津宜男さん逝く

友の会会員で、国際教育音楽



祭PMF誕生の貢献者として知られる竹津宜男さんが7月5日、亡くなった。79歳。

札幌ホルン奏者から札幌事務局局長として札幌の発展に尽力、PMF受け入れの原動力ともなった。会員になる前には会報「いずみ」第10号に「札幌が好きでやってきました」と題したエッセーを執筆、「観光都市を標榜するには市民が文化的に楽しい街にさせることを考えなくては」と友の会の活動に理解を示していた。

事務局日誌

▼7月6日＝中島公園「かもくま祭」に参加▼10日＝定例役員会(エルプラザ)会報49、50号編集企など▼11日＝中島中学総合学習支援(彫刻清掃)▼24日＝彫刻学習会(エルプラザ)▼25日＝北海道地域観光学会全国大会(北海道商科大)橋本会長発表▼26日＝北海道地域ネットワーク協議会総会に橋本会長参加▼27日＝屋外彫刻調査保全研究会総会8東京・武蔵野美大)橋本会長出席して活動状況講演▼31日＝大通公園彫刻清掃(西2、3丁目)▼8月7日＝定例役員会(エルプラザ)劣化コンクリート彫刻実態調査計画など▼21日＝彫刻学習会(エルプラザ)▼29日＝国際芸術祭鑑賞ツアー(大通地下500mギャラリー、地下歩行空間、市資料館)

編集後記

▼開催中の札幌国際芸術祭の地下街500mギャラリーなどで作品の解説を聞きながら鑑賞することができた▼もともと現代アートは難解で作者の制作意図など理解することもできずにいたが、作者が何を表現したいのかはおぼろげながら納得することができた。解説がいかにより作品鑑賞の助けになるか再認識。友の会の解説活動の重要性を感じた。
(大内)

札幌彫刻美術館友の会

会報「いずみ」 No.49

2014年10月1日発行

発行人 橋本 信夫

編集者 大内 和

(札幌市清田区清田5-4-6-30)

011-884-6025

印刷 山藤三陽印刷

会報「いずみ」49号 目次

自作自選19《女・立》	田中隆行	表紙
作者の言葉		2
宮の森の四季19「園 EN」	池田悦子	2
風見鶏「暮らしたくなる都市さっぽろへ」	米澤修吾	3
寄稿「美術セミナーで芸術作品鑑賞の橋渡し」	高橋淑子	4
レポート「美唄・旭川バスの旅」	桑原昭子、久保田彩荷	5
友の会ニュース		6-7
彫刻学習会「高橋大作講座」、彫刻解説板設置、学会発表相次ぐ		
彫刻清掃真っ盛り、国際芸術祭を鑑賞、竹津宣男さん逝く		
事務局日誌、目次、美術館行事予定ほか		

本郷新記念札幌彫刻美術館行事予定

本館

■セブン・ストーリー

10月4日[土]～12月7日[日]

北海道を拠点に立体表現を中心として発表している作家を紹介。中でもストーリー性を作品の特徴とする7人の作家に出品を依頼し、七つの物語世界を展開する。

■彫刻家の頭の中／In My Room

12月13日[土]～2015年4月12日[日]

本郷新は、彫刻制作にあたって多くの素描やデッサンを残した。様々な表現で描いた素描・デッサンと彫刻作品を比較しながら、制作の過程を紹介。また、会場の一室を会場に道内在住の若手作家を紹介するIn My Roomを開催。

記念館

■ミニ・コレクション展「本郷新と旅」

開催中～10月19日[日]

本郷新が2度の海外旅行で描いた異国の風景や人物スケッチを紹介

■本郷新とレリーフ

10月21日[火]～2015年4月26日[日]

彫刻や絵画とは異なる本郷新が手掛けたレリーフ作品を紹介。

本郷新記念札幌彫刻美術館

札幌市中央区宮の森4条12丁目 ☎011-642-5709

友の会ホームページ公開中です！ご覧ください。

<http://sapporo-chokoku.jp>